

# 2018年度の鉄鋼需要見通し

2017年12月18日  
一般社団法人 日本鉄鋼連盟

## 2018年度の日本経済は、緩やかな拡大局面を辿る見通し

- 2017年度の日本経済は、海外経済の成長率が高まる中、緩やかな拡大局面を辿っている。内訳をみると、個人消費は先行きの不透明感もあって力強さに欠けるものの、企業収益の回復などを背景に設備投資が堅調に推移している。また、公共投資が2016年度補正予算効果などもあって高水準であり、外需も増加基調を辿っている。
- 2018年度は、人手不足に対応する省力化投資や東京オリンピック・パラリンピック関連需要の本格化が下支えとなり、日本経済は引き続き緩やかな拡大局面を辿ると見込まれる。個人消費は、緩やかながら回復傾向を辿り、設備投資は引き続き増加が期待される。

## 2018年度の粗鋼生産は2017年度をやや上回る見通し

- 2017年度の鉄鋼内需は、建設では、土木や非住宅が増加傾向を辿っているほか、製造業でも、堅調な設備投資や旺盛な外需などから産機及び電機が総じて好調に推移。また、自動車も、新車投入などによる国内市場の堅調さに加え、海外市場の盛り上がりから増加基調を辿っている。一方、日本の鉄鋼輸出は前年度を下回る見込み。この結果、2017年度の粗鋼生産は前年度並み程度の水準となる見込み。
- 2018年度の鉄鋼内需は、建築で非住宅関連需要の増加が見込まれる。一方、土木が高水準であった前年度との比較ではほぼ横ばいとなり、建設全体では前年度比微増となる見通し。製造業では、設備投資関連の機械関連需要が堅調な一方、自動車が高水準であった前年度との比較では小幅なマイナスとなるとみられることなどから、製造業全体では前年度並みの水準で、内需全体でも前年度比微増のほぼ横ばい程度となるとみられる。
- 2018年の世界の鉄鋼需要は、worldsteel(世界鉄鋼協会)によると、前年比小幅な増加が見込まれており、日本からの鉄鋼輸出は、2017年度をやや上回ると想定される。一方、鉄鋼輸入は、2017年度並みの水準が見込まれる。
- この結果、2018年度の粗鋼生産は2017年度をやや上回る見通しである。但し、北朝鮮や中東等の地政学的リスクや中国の過剰生産能力の削減状況などは今後も引き続き注視していく必要がある。

以上

